

高度なセキュリティ要件に対応した クラウドサービスへの接続をスピーディに実現

インターネット専門銀行の住信SBIネット銀行株式会社は、オンプレミスシステムからクラウドサービスへの移行に伴い、デジタルインフラ拠点にエクイニクスを採用。IBX®データセンターおよびEquinix Cloud Exchange Fabric™を利用することで、金融機関として求められるセキュリティ要件を満たす接続が可能となった。さらに、今後のシステムクラウド化に必要な回線の開通へ向けて、リードタイムの大幅な短縮も実現している。

課題

- ・クラウドとの接続に厳格なネットワークセキュリティ要件を満たす必要があった
- ・クラウドへの移行を進めるためのスピーディな回線の開通
- ・セキュリティ要件を満たしたデータセンターのファシリティ

解決

- ・クラウドサービスへの直接接続によりセキュアな通信を実現
- ・サービスポータルからオンデマンドで迅速に回線を開通
- ・高度なセキュリティを実現するエクイニクスIBXデータセンター

IT資産のクラウド化を進める インターネット専門銀行

住信SBIネット銀行株式会社(以下、住信SBIネット銀行)は、AI(人工知能)やクラウドといった最先端技術も積極的に取り入れ、顧客にとって便利で有利なサービスを提供するインターネット専門の銀行である。同社では現在、勘定系以外のオンプレミスで運用している全システムをクラウドサービスへ移行し、コストを削減する取り組みを進めている。

「2020年3月までを目標に、ほぼすべてのシステムをクラウドサービスに移行します。その取り組みの中で課題となったのが、クラウドサービスへ接続するためのインフラをどうするかということです」と語るのは、システム運営部 グループ長 渡邊 弘氏だ。

当初は通信キャリアが提供するクラウド接続サービスを利用する方向で検討していたが、それでは同社の求める要件をクリアできないことが分かった。渡邊氏は、「当社のセキュリティ要件として、通信はすべて暗号化することになっています。キャリアが提供する接続サービスではこれが難しく、他に方法はないかを模索していました」と語る。

暗号化以外にも、ネットワーク機器を収容するデータセンターのセキュリティやサービス内容なども重視した。さらに、今回重要なポイントの1つ

となったのは移行がスピーディに行えることだった。「さまざまなシステムをクラウド化していくので、回線をつなぐのに何カ月もかかるようでは困ります。接続までのリードタイムも重視しました」と渡邊氏。

そうした中で住信SBIネット銀行は、エクイニクスより「IBXデータセンター」および「Equinix Cloud Exchange Fabric」の提案を受けた。当時の様子をシステム運営部 部長代理 佐藤 武氏は次のように語る。

「エクイニクスのサービスを利用することで、ブラックボックスを経由することなくクラウドサービスに直接接続できるという提案でした。これならセキュリティを含むすべての課題がクリアできると確信しました」(佐藤氏)

併せてIBXデータセンターも実際に見学し、物理的なセキュリティや設備などについても評価が高いものだった。

採用のポイントは、セキュアな接続と 短い開通リードタイム

住信SBIネット銀行には大きく分けて商用系とOA系の2つのシステム群がある。これらのシステムをクラウドサービスへ移行するにあたり、商用系はAWS (Amazon Web Services) へ、OA系は



住信SBIネット銀行株式会社

三井住友信託銀行とSBIホールディングスを出資会社とするインターネット専門の銀行。創業以来、「どこよりも使いやすく、魅力ある商品・サービスを24時間・365日提供するインターネットフルバンキング」の実現に努め、口座数は320万口座を突破、預金総額も4.4兆円に及ぶ(2018年3月末時点)。FinTechでは、さまざまな外部のサービス企業とのAPI連携により、各社が提供するサービスをよりセキュアな環境で利用できる取り組みを拡大。ロボアドバイザーによる資産運用商品など、新たなサービス提供にも注力している。

本社所在地
東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー18F
Netbk.co.jp

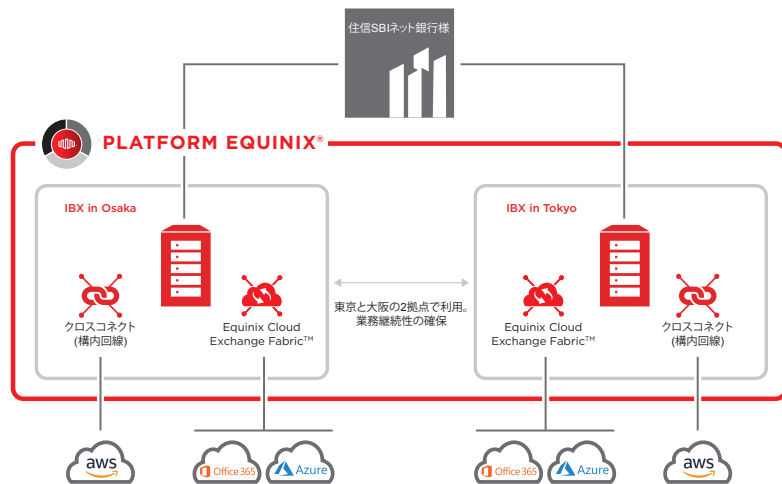


住信SBIネット銀行株式会社
システム運営部
グループ長
渡邊 弘氏



住信SBIネット銀行株式会社
システム運営部
部長代理
佐藤 武氏

住信SBIネット銀行様 ネットワーク構成概要



Microsoft Azureへ移行することが決まっている。

今回の導入では、AWSへの接続については「クロスコネクト (構内回線)」を利用してIBXデータセンター環境内で直接AWSへ接続。Microsoft AzureおよびOffice 365は「Equinix Cloud Exchange Fabric」によりオンデマンドで相互接続している。

同時に、IBXデータセンターに関しては東京と大阪の双方を利用し、業務継続性も確保している。「東西に接続拠点を置いて、万一の際にはすぐに切り替えられることが大切です」と渡邊氏は言う。

検討した中でエクイニクスの採用を正式に決定し、IBXデータセンターに機器を設置。そこからAWSやMicrosoft Azureへの接続設定を行ったが、極めてスムーズに進んだという。

「AWSを利用するのが初めてだったので不安な点もありましたが、エクイニクスから支援を受けながら設定をスムーズに行うことができました」(佐藤氏)

渡邊氏は、「開通がとても速く、エクイニクスを利用するメリットが実感できました。通常、キャリアの回線を敷設するのであれば2~3カ月かかることもあります。クロスコネクトを利用したAWSへの接続で数営業日ほど、Equinix Cloud Exchange Fabricであれば、ポータルからワンクリックで回線を開通できます」と話す。

エクイニクスの柔軟な対応とスピード感を高く評価

利用開始後は、特に大きな障害もなく安定して利用できているという。運用についても、エク

イニクスの柔軟なサポートや対応が大きく評価された。

渡邊氏は「AWSやMicrosoft Azureといったクラウドサービスとセキュアに接続できるのは、当社として大きなメリットです。しかも、数日もしくは瞬時に回線が開通して利用できるのは、機会損失を防ぐことにもつながります。万一帯域が不足する場合は、オンデマンドですぐに増やせるので大変使いやすいと感じています」と導入の効果を評価する。

住信SBIネット銀行では、インターネット銀行の強みを生かして外部のサービス会社と連携したサービス提供にも注力している。今後はAWSやMicrosoft Azureなどのクラウドサービスを使って、さらなるエコシステムを拡大していく構えだ。「APIの解放なども積極的に行っています。エクイニクスのインフラを活用してサービス会社と接続してエコシステムを広げていくということも、今後は十分に視野に入っています」と渡邊氏。

また住信SBIネット銀行の今後の展望について佐藤氏は、「当社のシステムクラウド化はまだ始まったばかりです。現状、IBXデータセンターにはネットワーク機器を設置しているだけですが、クラウド化できないシステムについてはサーバをIBXデータセンターに集約することも考えています」と語る。

さらにクラウド化を推し進める住信SBIネット銀行。エクイニクスは、これからも住信SBIネット銀行のデジタルインフラを支えていく。

“クラウドサービスとセキュアに接続できるのは大きなメリットです。極めて素早く回線が利用でき、オンデマンドで柔軟な設定変更ができるのも機会損失を防げます”

— システム運営部 グループ長 渡邊 弘 氏 —

エクイニクスとは

Equinix, Inc. (Nasdaq: EQIX) は、ダイナミックなエコシステム、幅広いネットワークの選択肢を提供する高性能データセンターのグローバルプラットフォームを通じて、世界中のパートナーとお客様のビジネスを結びつけています。グローバル企業やクラウド企業、コンテンツプロバイダー、金融機関など9,800社以上のお客様の他、1,800社以上のネットワーク・サービスプロバイダーが、PlatformEquinix上で、重要なデジタル資産を守り、アプリケーションのパフォーマンス向上を実現し、ビジネスを成長させています。

本社所在地
〒103-6035
東京都中央区日本橋2-7-1
東京日本橋タワー 35階

Equinix.co.jp